

「システムイノベーションのケーススタディ講座(第二回)」 ご案内

2021年8月27日(金) 9:00—17:30 ~ 8月28日(土) 9:00—12:30

Microsoft Teamsによるオンライン開催

主催  一般社団法人 システムイノベーションセンター 人財育成協議会
Systems Innovation Center (SIC)

<https://sysic.org/>

開催趣旨

システムイノベーションセンターでは、これまで最適化やモデリングなどの様々な講座を行ってきました。システムを設計・構築・運用する上で、こうした技術を修得することが必須であることは言うまでもありません。しかし、システムは実学であり、理論だけではリアルなシステムを社会実装することはできません。現実のシステム構築にあたっては、技術的な課題を解決するだけでなく、ビジネスモデルの設計、システムを取り巻く利害関係者間の合意形成、社会的受容性の醸成など、持続可能なシステムを作り上げるために考慮すべき項目は多岐にわたります。こうした多様な課題を解決するスキルは、講義を受けるだけでは身につけません。

一般に、知識の伝達・共有ではなく、実践的な問題解決能力を育て、協調性・探究心といった素質を伸ばすための教育アプローチとしてケーススタディが有効です。ケーススタディは、実際に起った出来事(ケース)を教材としてケースを疑似体験することで、現実の問題解決能力を身につけるもので、ビジネス、医療・看護や教育といった分野での適用がよく知られています。

システムの分野も、ケーススタディが広く行われている上記分野と同様に、同じ状況でも人や組織によって対応方法が異なり、一つの解決策で画一的に課題を解決できるものではなく、ケーススタディが有効であると考えます。そこで、システムイノベーションセンターでは、実際にシステムイノベーションを起こした事例を教材としたケーススタディの講座を企画することといたしました。本講座では、これまでに社会実装されてきた様々なシステムを紐解き、受講生自らがそのイノベーションの現場を疑似体験することで、システム思考やイノベーションに必要なマインドセットを体得していただくことを目指します。

第二回となる今回も、第一回と同じく東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)の東京圏輸送管理システム(ATOS)を取り上げます。ATOSは、世界に類を見ない超過密複雑輸送を支えている日本が誇るシステムの一つです。

当時の鉄道運行管理業務に関する講義の内容を踏まえて、これを理解しつつ、その業務のシステム化への課題や解決アプローチを当時のシステム担当者の立場から考え、グループ討論します。

SIC人財育成協議会担当 赤津雅晴(株式会社日立システムズ 執行役員)

講師

松本雅行（元 東日本旅客鉄道株式会社執行役員）

東京工業大学理工学研究科電子物理工学終了。1972年日本国有鉄道に入社し、鉄道信号システムの保守開発に従事。1987年東日本旅客鉄道(株)に入社、東北工事事務所次長、運輸車両部担当部長を歴任の後、保安工業に入社 常務取締役、その後2004年東日本旅客鉄道(株)に再入社、電気ネットワーク部執行役員信号システム管理センタ所長として、鉄道信号システムの規格開発に従事、国際規格業務も担当する。東京工業大学及び早稲田大学の非常勤講師を歴任 工学博士。

馬場裕一（東日本旅客鉄道株式会社）

早稲田大学工学部電子通信学科卒業。1991年東日本旅客鉄道(株)に入社し、鉄道システム関係の開発、プロジェクト管理業務に従事。ドイツ鉄道ミュンヘン研究所研究員、東京大学工学部委託研究員として鉄道無線システムの研究に従事。IECエキスパートとして鉄道システムの国際規格化業務に従事。現在、鉄道事業本部運輸車両部次世代輸送システム推進センター所長 早稲田大学非常勤講師。

金澤直幸（(株)日立製作所）

宇都宮大学工学部情報工学科卒業。1995年(株)日立情報制御システム(現(株)日立産業制御ソリューションズ)に入社し、ATOS(主に、駅システム、保守作業管理システム)の設計・開発業務に従事。2016年(株)日立製作所に転籍。現在、制御プラットフォーム統括本部 交通制御システム本部 ATOSセンタ担当部長。

プログラム

2021年8月27日(金) 8:45オンライン接続

	時刻	内容	形式
1	9:00-9:15 (15分)	イントロダクション	木村英紀(人材育成委員会主査) 貝原俊也(神戸大学)
2	9:15-9:45 (30分)	参加者自己紹介	単なる自己紹介ではなく、グループに分かれて、アイスブレイクセッションにする
3	9:45-10:45 (60分)	ケース理解 「鉄道システム全般と ATOS の概要」	講義 松本雅行
4	10:45-10:55 (10分)	休憩	
5	10:55-12:25 (90分)	事前課題に関する グループセッション(前半)	グループ毎討議
6	12:25-13:25 (60分)	昼食休憩	
7	13:25-15:25 (120分)	事前課題に関する 発表	各グループの発表(Q&A 含む) (20分×6)
8	15:25-15:40 (15分)	休憩	
9	15:40-16:10 (30分)	ATOS の現状	講義 金澤直幸((株)日立製作所)
10	16:10-16:25 (15分)	現状の課題と ATOS に期待される将来 機能	講義 馬場裕一(東日本旅客鉄道(株))
11	16:25-16:40 (15分)	翌日のディスカッションに 関する説明	解決編の配布
	終了後	各自自習	

2021年8月28日(土) 8:45オンライン接続

	時刻	内容	形式
12	9:00-10:00 (60分)	新 ATOS 提案に関する グループディスカッション	グループ討議
13	10:00-10:15 (15分)	休憩	
14	10:15-12:15 (120分)	新 ATOS 提案に関する 発表	各グループの発表(Q&A 含む) (20分×6)
15	12:15-12:30 (15分)	まとめ	

ケース作成協力者：東日本旅客鉄道(株) 馬場裕一、土原茂之
元東日本旅客鉄道(株)執行役員 松本雅行
(株)日立製作所 加藤博光、古屋聡一、矢野浩仁

受講対象者

企業のデジタルトランスフォーメーションを担う中堅技術者・幹部候補、システム開発のプロジェクトに参画していて、具体的な課題を抱える技術者（本講習はディスカッションが基本です。積極的に自分の意見を発言し、講師と一緒に講義を作っていくという姿勢で参加いただくことが望まれます。また、参加者には事前にケースを配布し、事前課題を提示する予定です）

受講生は「SIC システム人会(仮称)」のメンバーとして登録され、別途企画予定の「受講生の交流会」にご招待する予定です。

定員 : 30名 定員オーバーした場合はSICの会員を優先します

受講料 : 15,000円/人（SIC正会員企業の方は原則として2名まで無料）

お申込方法

=====

SICイベント参加登録ページ(<http://sysic-org.sakura.ne.jp/SICregistration.html>)より、記載の案内に従ってお申込みください。

・申込日限 **2021年 8月25日(水)**

申し込まれた方には、開催が近付きましたら招待URLをお送りします。
ご不明の点や、うまくご申し込みができなかった場合は、SIC事務局 office@sysic.org に、ご連絡ください。

=====

有料申込者には振込先を明記した請求書を事務局より発行いたします。

お問合せ先:(一社)システムイノベーションセンター事務局 office@sysic.org
電話: 03-5381-3567 東京都新宿区西新宿6-12-7 ストック新宿1F